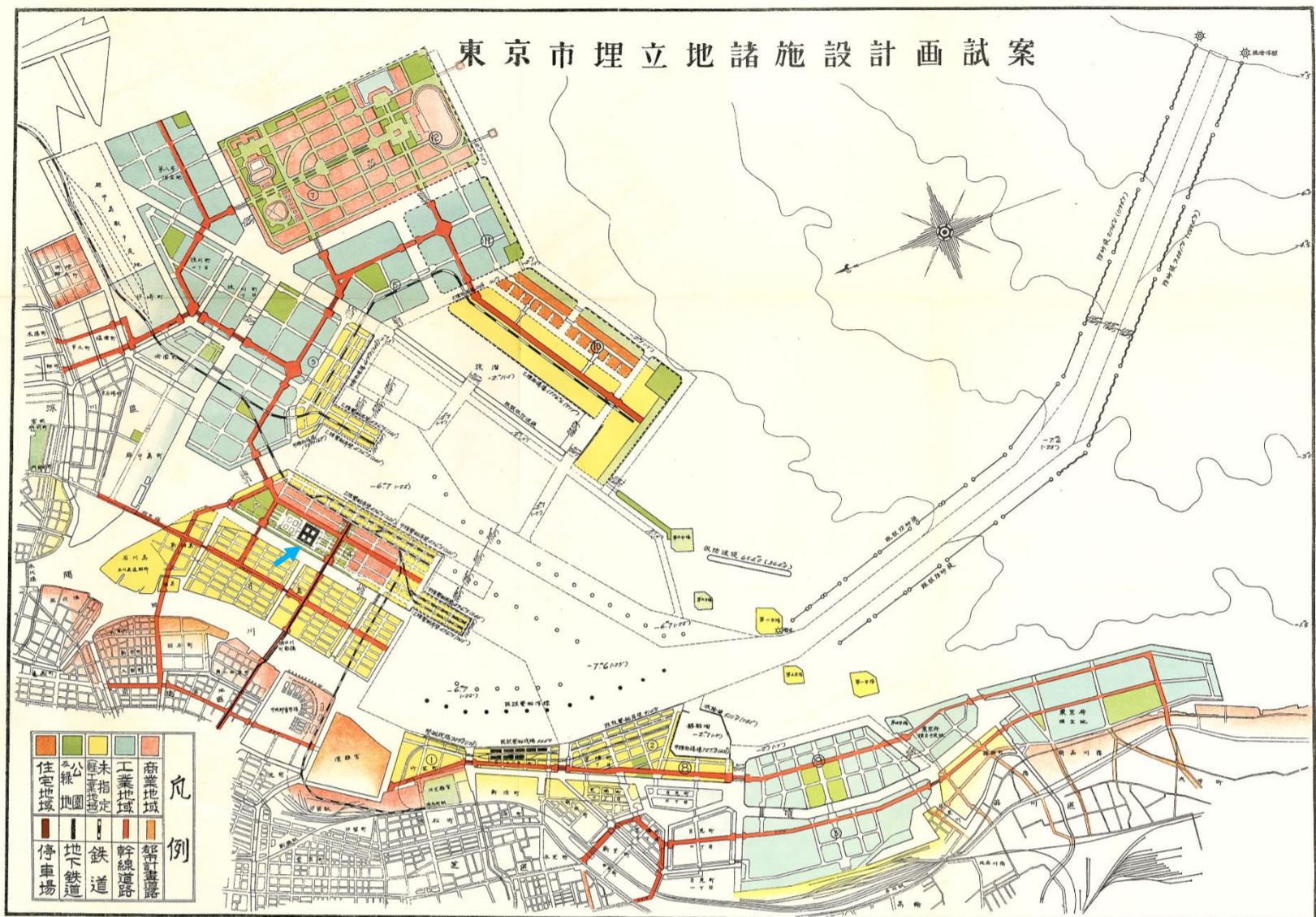


独立市庁舎をめざして



『東京市庁舎建設敷地の決定』附図 昭和8年(1933年)
水色の矢印が建設予定地。現在は晴海トリトンスクエアとなっています。

東京市が発展を遂げるにつれ、市役所の業務は増加の一途をたどり、それに伴って、市役所の周囲には新たな建物が次々に建てられていきます。さらには東京府の敷地内はもちろん、それを超えて、分庁舎が増えていきました。

行政事務の能率も上がらないとして、大正期に入ると独立の市庁舎建設に向けた検討が開始されます。当初は大手町を敷地候補としていましたが、計画は進展しませんでした。

昭和8年(1933)月島4号埋立地を新たに敷地として決定すると、翌9年には庁舎の設計競技も実施され、にわかに市庁舎建設は現実味を増しました。

しかし、昭和18年(1943)戦時体制強化のため、東京府・東京市を廃して東京都が発足することとなり、独立市庁舎は実現しませんでした。